

- 問1 日本の都道府県別の茶の生産量割合を示した統計資料において、一位の静岡県（約40%）に次いで、国内第二位となる28.6%の割合を占めている九州地方の県はどこですか。（2017年 岐阜県公立入試 類似）
1. 福岡県 2. 三重県 3. 鹿児島県 4. 宮崎県
- 問2 九州地方南部に位置する鹿児島県では、第1次産業の就業人口割合が約9.5%と全国平均に比べて高く、農業が盛んです。この県の土地利用の特徴として、耕地面積に占める畑の割合が約68%と非常に高いことが挙げられますが、このように畑作や畜産が中心となった主な理由として正しいものはどれですか。（2018年 東京都公立入試 類似）
1. シラス台地と呼ばれる火山灰が降り積もった土地が広がり、水持ちが悪いため稲作に不向きであったから。
2. 冬の積雪量が多く、1年の半分以上を農作業に充てることができない気候特性があるから。
3. 夏の降水量が極端に少なく、大規模なため池を作ることが技術的に困難であったから。
4. 平野部がほとんど存在せず、急峻な傾斜地を利用した果樹園の経営が中心となったから。
- 問3 九州地方にある、温泉地として全国的に有名な観光都市の産業構造や社会状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 広大な土地を活かした大規模な農業や畜産業が盛んであるため、第1次産業の就業者割合が他の都市に比べて高く、若者の流入が続いている。
2. 旅館や飲食店などの観光関連のサービス業に従事する人が多いため、第3次産業の就業人口割合が極めて高いが、少子高齢化や人口減少という課題も抱えている。
3. 臨海部に鉄鋼業や自動車産業などの大規模な工場が集積しているため、第2次産業の就業者割合が最も高く、生産年齢人口の割合も非常に高い。
4. 県庁所在地として行政機能や情報通信業が集中しているため、第3次産業の割合は高いが、都市開発により子育て世代の人口が増加している。
- 問4 大分県の北部において、冬の時期に降水量（降雪）が多くなる傾向がある理由を、地形と風の観点から説明したものとして適切なものはどれか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 太平洋から吹く温暖な季節風が、南部から北上する際になだらかな山地を越え、その過程で冷却されて北部に雪をもたらすため。
2. 日本海側から吹き込む乾燥した季節風が、県の中央部にある高い山地を越える際に、瀬戸内海からの水蒸気を吸収して雨を降らせるため。
3. 四国山地を越えてきた湿った季節風が、県の中央部にある盆地状の地形に停滞し、冬の低温によって雪へと変化するため。
4. 北からの湿った季節風が、県の中央部を東西に走るなだらかな山地にぶつかり、上昇気流が発生して雲が発達するため。
- 問5 九州地方の北部に位置し、福岡県と佐賀県にまたがって広がる、日本を代表する稲作地帯として知られる平野はどれか。（2023年 青森県公立入試 類似）
1. 熊本平野 2. 筑紫平野 3. 宮崎平野 4. 十勝平野
- 問6 日本の諸地域の気候を統計資料から判別する場合、宮崎県（宮崎市）のデータに該当する特徴的な数値の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）
1. 1月の平均気温が約10度と高く、さらに6月と9月に降水量の大きなピークが見られる。
2. 1月の平均気温が約5度であり、12月から2月にかけての降水量が1年で最も多い。
3. 8月の平均気温は約28度まで上がるが、年間の降水量は1200mm程度と非常に少ない。
4. 1月の平均気温が氷点下となり、年間の降水量は季節による大きな変動がなく一定である。
- 問7 1980年から2000年にかけての九州地方における工業出荷額の内訳の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）
1. 加工組立型産業が海外移転により衰退し、再び鉄鋼や化学などの重化学工業が中心となった。
2. 食料品などの生活関連型産業が急増し、工業出荷額において電気機械を上回り首位となった。
3. 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。
4. 石油化学コンビナートの増設により、化学工業の出荷額が電気機械の出荷額を大きく引き離れた。
- 問8 九州地方の各県を比較した統計において、山地の割合が約7割と高く、かつ豚の飼育頭数が約79万6900頭という、近隣の県に比べても圧倒的に多い数値を示している県があります。この県の産業的特色について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2024年 秋田県公立入試 類似）
1. 冷涼な気候を活かした高原野菜の栽培が盛んで、主に夏季の都市部への出荷を行っている。
2. 広大な平野を活用した大規模な稲作が行われ、東北地方に匹敵する米の生産量を誇っている。
3. リアス海岸を利用した真珠の養殖が産業の中心であり、世界的な輸出拠点となっている。
4. シラス台地などの地理的条件を背景に、豚や肉用牛、鶏などの畜産業が非常に盛んである。
- 問9 九州地方の周辺を流れる海流が、地域の生活や気候に与える影響について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。
2. 太平洋側を流れる親潮の影響で霧が発生しやすくなり、夏でも気温があまり上がらない冷涼な気候となる。
3. 北からのリマン海流が九州の日本海側に冷たい水を運ぶため、冬の九州北部は北海道と同じくらい寒冷になる。
4. 日本海を南下する対馬海流が、九州地方に乾燥した冷たい空気を運んでくるため、冬は降水量が非常に少なくなる。
- 問10 地形図において大規模なくぼ地として示される地形で、火山の噴火活動によって形成された円形や馬蹄（ばてい）形の地形を何といいますか。（2020年 群馬県公立入試 類似）
1. カルデラ 2. 盆地 3. 扇状地 4. 火口
- 問11 鹿児島県の南方に位置し、人口約3万人のある島に関する統計資料において、「日本最大のロケット打ち上げ施設（宇宙センター）があり、宇宙開発関連の観光が行われている」「農業ではサトウキビの生産が盛んである」と説明されている島はどこですか。（2019年 東京都公立入試 類似）
1. 奄岐島 2. 屋久島 3. 奄美大島 4. 種子島
- 問12 九州にある特定の都市の産業別就業者割合を調査したところ、就業者全体の3分の1以上（約33.5%）が、製造業や建設業といった第2次産業に従事していることがわかりました。この都市の産業構造に見られる主な特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 大規模な自動車の組立工場や関連部品工場が集まって立地している。
2. 行政機関や商業施設が集積し、卸売業や小売業などの第3次産業が極めて盛んである。
3. 広大な平野を活用した米作りや施設園芸といった第1次産業が中心である。
4. 歴史的な建造物や自然景観を活かした観光業が、地域経済の基盤となっている。
- 問13 九州地方の北部、福岡県から佐賀県にかけて広がる平野について述べたものとして、最も適切な名称を選びなさい。この平野は有明海に面しており、九州地方を代表する大規模な稲作地帯として知られています。（2023年 福島県公立入試 類似）
1. 宮崎平野 2. 仙台北野 3. 筑紫平野 4. 熊本平野